

千代田区男女共同参画センター情報誌

MIW通信

22
2008

特集1

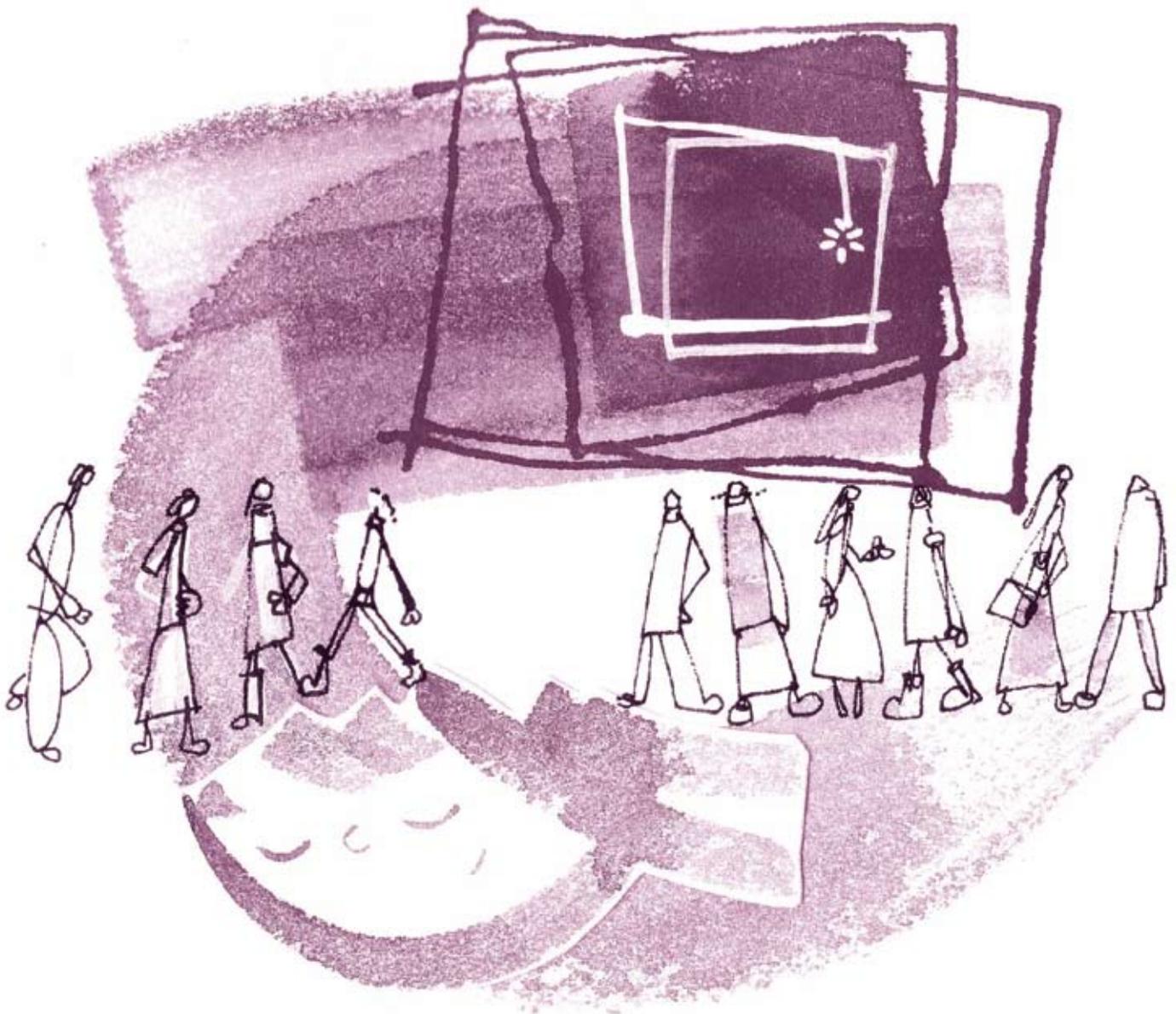
■インタビュー

秋吉久美子さん
〈個〉を培う流儀

特集2

■座談会

ハケン、パートで生きる私たち
洗いざらい話します
非正規雇用で生きる現実とこれから



ミィウ
「MIW」は千代田区男女共同参画センターの愛称です。MはMan(男性)、IはIntercommunication(情報や意見の交換)、WはWoman(女性)という意味です。男性と女性の間には、いつもI(自分らしさ)と愛(思いやり)をもって、対等な新しいパートナーシップを創造してほしいと願っています。

秋吉久美子さん

〈個〉を培う流儀

〈個〉がありつつ、パブリックという窓から学ぶ

KUMIKO AKIYOSHI

昨年秋、早稲田大学の大学院に入学し、公共経営を学んでいる秋吉久美子さん。

妻の役割、母の役割に縛られずに生きる秋吉さんに、回りの人との関わりのおかげで〈個〉を大切に生きるご自身の流儀を伺いました。

◆まず、学生生活の感想からお聞かせください。

とても新鮮で楽しいですね。自分で調べて発表し、意見を出して話し合う。芸能界の仕事では、自分の発言ひとつで、女優の人生、キャリアが大きく分かれることがあります。ここでは間違っている間違っていても、間違いは間違いとして正せばいい。

また、映画や女優は時代に合っているかどうかで価値が決まります。いくら自分でいいお芝居をしても受け入れてもらえなければ意味はない。常に、他力と自力のバランスが問題になります。でも大学院では学問が独立していて、どこからもプレッシャーを受けずに話せる。50歳を過ぎて、こうした経験ができて本当に嬉しいです。



◆大学院に行こうと思ったきっかけは？

「今だ」というひらめきです。それと育った家庭の影響もあるかな。父が学究肌の人で、テレビも民間放送をほとんど見ない、一般大衆的なエンターテインメントのうかれた世界が好まれない家庭で育ちました。私はそれに対するクエスチョンもありません、本の世界に浸って少女期を過ごしました。

高校生時代は学生運動が終ったばかり。私は何かになりたいとも思わず、何となく大学を受

けて落ち、たまたまスカウトされて女優になったんです。

女優になってからは、父母から受けついで学究肌などところをなるべく隠して生きてきました。だから、50歳を過ぎて、やっと花開いたという感じなのです。

◆大学院では何を勉強しているのですか？

公共経営という新しい学問です。これは〈個〉を失わずに公の実際化、簡単に言うと、みんながうまく寄り添い共有・共存していけないかを考える学問です。哲学から議会制の検討や公

務員のあり方、ゴミやエネルギーに関して一国では出来ない足並みをそろえるグローバル化、個人の欲望や公の経済問題など、世界中が終末に向かっていく今をどうしたらいいか考える学問なのです。

芸能界にいて、私は〈個〉について考えてきました。フランスの映画に触れば、〈個〉が徹底的に考えられているとか、日本とアメリカ・ヨーロッパでは個人の描き方に差があるななど。だから、〈個〉について自分なりにずっと考えたかったです。でも、〈個〉だけだとオタクになっちゃう。公共経営

は、〈個〉がありつつパブリックというドアや窓があるので、開放感がある。意外と現代に合っているのかもと思います。

でも、大学院に入る準備はホントに大変でした。5月に2万5千字、原稿用紙60枚以上の論文を書きました。タイトルは「社会の成熟度による、社会定義と表現方法の関連性」でした。

大学院生になって、ホームワークしながら「なぜ自分がイラク紛争についてまとめているんだろう」と思うこともあるけど、生きている人間が起こしている問題に立ち向かい、自分に反映させて考えているんだって思います。

◆「母の役割」「妻の役割」など自分への縛りを感じたことありますか？ また、私という〈個〉について、どのように考えていらっしゃいますか？

人生の中で自分自身に何かの役割という縛りを感じたことは全くありません。

振り返ってみると、私は少女期から、常に常に、本から刺激を受けて〈個〉を培ってきたと思います。野間宏から小林多喜二、ゾラ、ドストエフスキー、デュラス、ブコウスキー*までパラノイア的に(偏執的に)こ

わって)読んできて、「この生き方素敵!」「こんな風に生きてみたい!」「こんな考え方もあるのか」って、刺激を受けてきました。

「秋吉久美子」という女優のイメージからか、外見からは、「私は私よ」と回りと関わりなく生きていこうに見えるかもしれないけれど、実はそうじゃないんです。常に「私」って何なんだろうと考える。「私はこんな人間だ」って決めてかかってどまってるって決まらなければいんじゃないかと思うんです。「私」について考えるとき、外から学ぶものが多いんです。

以前マザーテレサの言葉に感動したことがあります。マザーテレサの家が貧しい家庭に施しをした。とても貧しい家で、目も覆わんばかりだった。そうしたら、「隣のうちはもつと貧しいから、頂いたものを分けてもいいでしょうか」と言われた。こんなに貧しい人が隣のうちの人のことを考えられることにテレサがショックを受け、感動したという話です。

これは心に響きました。どんなに自分をかたくり捨ててという時でも、人のことを考えられるのが人間の本当の品位じゃないかと思われました。外から受けた刺激を自分の中に戻し、他人に対して心を開い

秋吉久美子 あきよしくみこ

女優 1972年にデビュー。70年以降『赤ちょうちん』『妹』など50本あまりの映画に出演。アジア映画祭主演女優賞、ブルーリボン賞主演女優賞などを受賞。2007年秋に『ドレスの下に』(青山出版社)を出版。



て、これでいいのかを思うべき存在、それが自分だと思えます。だから、「自分だけでは自分ではない」という感じなのかな。

◆20歳以上若いパートナーと暮らすということについてお聞かせください。

結婚してみると、なぜ、この男は自分が好きな時にだけ食事を作り、好きな時にだけお皿を洗い、定期的にやらないんだと思ったりしますよ(笑)。「どちらかが作ったら、もう一人が洗う」とルールを決めたじゃないか、と。このルール、非常にいい公共経営だと思うけど、それが家庭のなかですでに破綻している(笑)。

社会にはもともと法律・法規・社会常識があるけれど、2人だって同じこと。夫婦は最小の社会。結婚は2人で常識を何十年もかかってつくることだと思います。

今、パートナーはニューヨークで、自分の仕事をしています。彼が彼として私がいらない中で自信を深め、社会的に生きていくためには離れていたほうがいいと思っています。常に、彼が「秋吉久美子の夫」って言うわね、それじゃ、おれは何なんだ」と思うでしょう。男と女が五分五分にいられば、

人は望む通りのことをできるものではない。
望む、生きる、それは別々だ。
くよくよするもんじゃない。
肝心な事は、望んだり生きたりすることに飽きない事だ。

ロマン・ロラン

格言と秋吉さんのエッセイを交えた最新刊「ドレスの下」で選ばれた格言の一つ。



◆インタビューを終えて

自然体でまっすぐにこちらの眼を見て話される秋吉さん。年齢にこだわることなく50歳を超えて「いまだに青春」と話されます。<個>とその回りの世界との関係について真摯に考えていこうとする姿がとても印象的でした。

〈個〉は損なわれないけど、最初から秋吉久美子というテリトリーの中で自分が評価されれば、健全な男性としての成長の仕方を損ねる部分があるだろうと思います。

これまでの歴史では、単純に力が強いほうが上で、強いものに弱いものが従ってきた。男性は何万年にもわたって男としての役割分担や名誉があった。

今、社会で男性が輝けない、つやかさを失っている部分がある。家事もやって「イケイケ部長」になれるかという難しい。一方で、男性性を発揮して、「頼れる男性」として仕事をバリバリやるのもまた問題が

ある。この世紀はみんなが迷っているんです。

◆お母さんの介護をしてこられましたか……

母を72歳で、がんて亡くしましたが、それまでとても元気だったのでショックでした。最初の3ヶ月は実家で、その後は仕事の後、車で夜中に実家のある福島の病院に行き、そのまま泊まって介護をしました。

実際に介護をして、母は結構わがままで感じましたね。自分に対しても、他人に対しても、自己犠牲が愛だと信じていた人でしたが、亡くなる前に初めて、

裸の付き合いというか、親友同士がけんかする体験ができたのでよかったです。

私の家族としての役割は、次々に起こる合併症への対処や治療・手術のリスクに対する判断でした。それが看取るという私の役割であり、介護であり、娘としての責任だったと思います。

医療に関しては、自宅介護か病院か、介護をする人に対する支援制度、死を前にした本人や家族への精神的なサポートなど、もっとやってほしいと思いました。人間が生きて死んでいくというプロセスの中で、医療・介護の現状には、脇が甘い部分が出ます。

◆これからのご自身に関して。

年齢的に客観性も広がってきたけど、これからどう生きるかは未知の問題。いまだに青春模索中です(笑)。女優は女優でやりながら、いつの間にかいろいろな人を引き込んで、専門家の方たちが動いてくれるような立場になりたい。私が話したことや感じたものを受け取ってくださり、社会が一步でも前に進んで、たくさんの方が苦しみからちょっとはいい方向に向かってくれたらいいな。それが、私が一人として今できることかなと思っています。

座談会

ハケン、パートで生きる私たち 洗いざらい話します 非正規雇用で生きる現実とこれから



雇用形態はますます多様化し、現在、女性の半数以上(52.8%)^{*}、男性の2割弱(17.9%)^{*}がパートや派遣などの非正規雇用で働いています。今回は、非正規で働く方々に、現状と課題、仕事に対する考え方、課題解決へのご意見などを本音で話していただきました。

^{*} 労働力調査 H18年平均結果

まず、雇用の形態と仕事の内容からお聞かせください。

C 大手の派遣会社の日雇い派遣で、主に配送助手、会社の引越などをしています。明日午前中は一般家庭の引越、午後から深夜にかけて、会社のレイアウト変更の仕事ですが、毎日仕事が変わります。勤務時間は基本的には9時〜5時ですが、実際は不規則。2時間ほどの仕事も組み合わせています。

賃金は日勤で1日7500円。会社の規定ではどんな仕事も同一賃金ですが、短時間でむ引越もあれば、8時間みっちり拘束されて働く倉庫内の仕分け作業もあり、実感としては、賃金は安いです。

現在は月給制になりましたが、以前は、週の月、火、木、金曜に賃金が日払いされていました。日払い制からいきなり月給制になると、蓄えがないと金銭的に困り、立て替えをしてもらうこともあります。

A 月刊誌の編集部で、雑誌の編集・発送などの仕事を週3回しています。1日7時間、時給は950円で、やり始めて今年で3年目です。

職場の雇用形態はさまざまで、正社員、派遣、外注、契約、アルバイト、パート、再雇用、社外の外注事務所の社員など、

誰がどのような雇用形態で働いているかわからず、最初はためらいました。3年たつてようやく、その人の雇用形態がわかってきた感じです。年配の正社員の中には中卒、高卒で事務系の仕事をしている人もいれば、大学院出や留学経験がある人が契約やアルバイトで働いていることもあり、変化に富んだ職場です。

E 介護老人福祉施設の厨房で、2年3ヶ月、調理補助としてパートタイムで働いています。仕事は食事の準備や後片付けです。1日8時間労働で、早番、遅番があり、1ヶ月ごとにシフトが替わります。

賃金は時給780円から1年間に20円ずつ昇給しました。社会保険はありません。福利厚生はあるといっても年1回の社員旅行(自己負担あり)だけ。有給休暇も年7日ありますが、実際には取らせてもらえない状態でした。

厨房で働いている14、5人の半分が調理師、栄養士の正規社員で、半分が調理補助のパートです。調理師が作って調理補助が配膳、食器洗いをします。パートの中には調理師、栄養士の資格を持っている人もいます

が、活かされているわけではありませぬ。ただ、人手不足の時は、契約にはない調理の仕事もやらされます。

B 派遣で、9時～5時まで週5日、リース会社で働いています。リース契約の取りまとめ部門で、契約書類の作成、データ入力などをしています。派遣元の会社は大手の新聞社が経営しています。

時給は1600円。社会保険、福利厚生があり、交通費ももらっています。派遣先では7割ぐらいは派遣社員で、1割が契約社員、その他正社員といった感じですよ。派遣と契約社員は女性で、わずかな正社員が男性です。

女性が多いので、子どもの病気などで突然休んだり、早退し

気などです。

今の雇用形態で働こうとした理由は？

B 大学卒業後、就職したけれど、その仕事が終わらず仕事を辞めました。その後、仕事がなく見つかからず、ちょうど今登録している派遣会社が立ち上がった頃だったので契約しました。15年ほど前のことで、まだ派遣の仕事はほとんどなかったですね。企業がアルバイトから派遣を採るように切り替えていた時期でした。

でも、認めてもらえない雰囲気があります。私としては働きやすいと思っています。

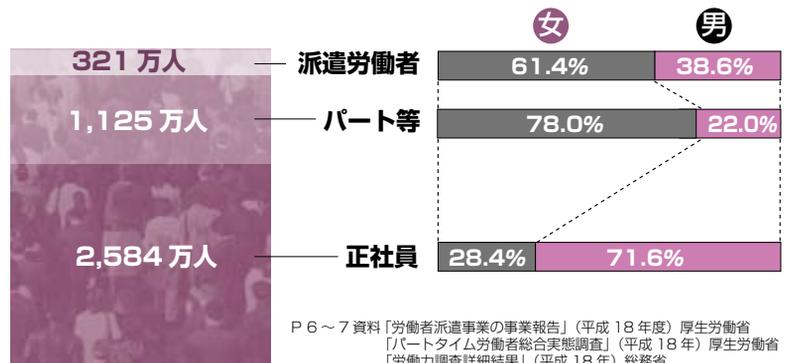
D 現在、派遣会社に登録し、日雇い派遣の仕事をしています。オフィスワークや工場での品の箱詰め作業などを行っています。労働時間は1日9時から5時までもあれば、朝2時間だけの仕事もあります。時給制で、事務系の仕事は1000円、工場での肉体労働は時給800～900円です。

派遣先によっては、派遣の下に時給700円から800円のパートの人たちがいます。ひとつの職場で正社員は1人か2人。チームリーダーもよくて契約社員です。非正規雇用の人たちがいなければ職場が成立しないのが現状です。

これまで、派遣先は3回変わりました。最初は5年間働き、その後、新しい会社で3年雇用になりました。運のいいことに、仕事が合わないことはなく、楽しくやってきました。

C 十数年前は、正規雇用で旅館のパーテナーをしていましたが、心の病になってしまいました。接客業でもあり、続けられずに辞めました。失業保険をもらい

雇用の実態と男女比



P6～7 資料「労働者派遣事業の事業報告」(平成18年度)厚生労働省
「パートタイム労働者総合実態調査」(平成18年)厚生労働省
「労働力調査詳細結果」(平成18年)総務省

座談会

ハケン、パートで生きる私たち
洗いざらい話します
非正規雇用で生きる現実とこれから



ながら自分にあった仕事を探していました。なかなか見つからず、5年前に日雇い派遣の仕事に就きました。

A 大学をでてから、国立大学の非常勤の公務員になり、教授の秘書として月に10万円に満たない給料で3年働きました。大学院の授業に出られたので安い賃金は納得できずでした。その後、正規雇用で民間のシンクタンクの研究員として4年働きました。

研究所は街づくりの調査など公共事業を請け負う会社で、自分でも仕事に明け暮れたといえるほど働きました。その頃、結婚したのですが、私が「仕事、仕事」だったので、夫が家を出てしまい、離婚。その時は、心も体もボロボロで、精神的にシヨックを受けました。

その後、今の夫と出会い、結婚。子どもができたので、やりかけた仕事もあつたけれど家庭に入りました。15、6年は専業主婦でした。3人目の子が小学校高学年になった3年前、以前の事務所に再就職を希望しましたが、かなわず、母校の大学の人材銀行の求人情報で、今の仕事を見つけました。

E 正社員で何年か働き、その後、独立してデザイン関係の仕事をしていました。でも、不況になって仕事がなくなり廃業。

その仕事がコンピュータに移行しただけでなく、労働力の安い中国に発注されるようになったためでした。

そこで、仕事を探しましたが、50歳を超えていたので、正社員の仕事なんてありません。パートでも自分の経験を活かせる仕事はなかった。そこで、料理ならできるから厨房の仕事はどうかと思いついたのです。

D 大学で美術関係について学び、卒業後、正社員でギャラリに勤務しました。アーティストに会いに行ったり展覧会の企画をしたり、6年間働きました。ところが、バブルがはじけた後の1993年頃、父親が経営していた自動車工場が倒産、父親が行方不明になりました。取り立て屋が勤務先に来て来て迷惑をかけたことで配置替え、つまり事実上、リストラされました。それまでの美術担当からイベント会場のレジ打ちの仕事に替えられ、自ら辞めるように追い込まれたのです。それで、派遣社員になりました。

父の会社の倒産は、労働力の安い中国への移転を断つて日本で頑張り続けた結果でした。「私のリストも自分の問題ではないのになぜ？」という思いはありました。同時に、どんなに頑張っても、グローバル経済のなかでは、仕事はより安い賃金の

出席者

A 女性 40代

■パートタイム
月刊誌の編集アシスタント
(契約期間 1年)

■時給 950円
超過勤務賃金 無
■週 3回、7時間 / 日労働
■社会保険 無
■雇用保険 無
■年次有給休暇 無

B 女性 30代

■派遣社員 (派遣先との契約期間 3年)
一般事務 (データ入力、契約書作成など)

■時給 1600円
■週 5日、8時間 / 日労働
■社会保険 有
■雇用保険 有
■年次有給休暇 12日

C 男性 30代

■派遣社員
(日雇い派遣)
引越し、運送助手、倉庫整理など日替わりの作業

■日給 7500円
超過勤務賃金 契約先との規定による、基本給の1.25倍
■8時間 / 日労働
(短時間もあり)
■社会保険 有
■雇用保険 無
■年次有給休暇 有

D 女性 30代

■派遣社員 (日雇い派遣)
一般事務、電話対応、工場作業など

■時給 800 ~ 1000円
超過勤務賃金 8時間を超えると1.25倍
■7 ~ 8時間 / 日労働
(短時間もあり)
■社会保険 無
■雇用保険 無
■年次有給休暇 無

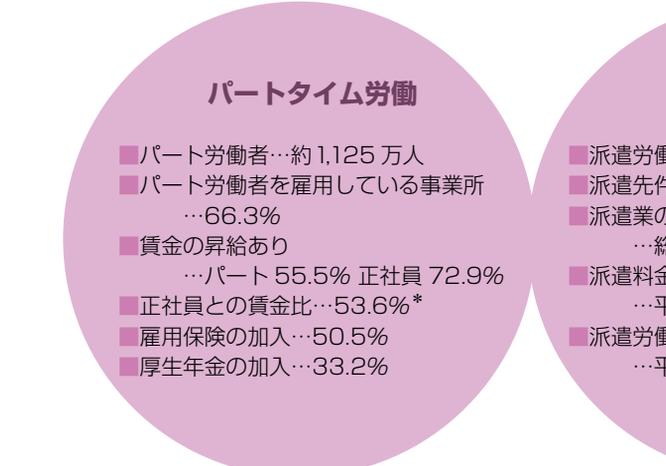
E 女性 50代

■パートタイム
介護老人福祉施設の厨房での調理補助

■時給 820円
超過勤務賃金 無
■週 3 ~ 6日、8時間 / 日労働 (早番、遅番あり)
■社会保険 無
■雇用保険 無
■年次有給休暇 7日

C コンサート会場の設営の時のことです。午前の仕事が終わって、1時間以上派遣社員が放置されたことがあります。私たち派遣は指示なく勝手に動けないのです。そこへ、昼食をすませた派遣先の社員が戻ってきて「君たち、昼ごはんまだなの?」。派遣がいてもいないように扱われる状況がまかりとおっているのです。派遣社員も、陰では文句を言いますが、それだけで終わり、泣き寝入りしているのが現状です。

E 契約では朝6時半からの仕事なのに、パートは6時から仕事をしています。100人分の朝食を8時までに作らなければならぬからです。夜勤の時は7時半までですが、1時間の残業はざらです。最初から、終わるはずがない仕事量だとわかっていのに、規定の労働時間を超えても賃金は支払われません。契約上は週18時間労働となっていますが、実際には作業時間が月100時間を超える時もありました。また、規約にはあるのに有給休暇を取らせてはくれない。でもこれは正規社員も同じでした。



*正社員を100%とした場合。職務が正社員とほとんど同じでも81.7%

D 朝9時からの仕事の場合、集合1〜2時間前は当たり前。けれど、拘束はされるのに、その時間分の賃金はでません。工場での労働は、冷えた床での立ちっぱなしの作業もあり、体にもきつく、女性の場合、婦人科系の病気をこす可能性もあります。

A 私自身は正社員ではないことは確かですが、雇用契約がパートかアルバイトか、どうなっているかわからないのです。聞いたほうがいいと思うけど、きちんと聞く勇気がない。最初の半年間、交通費が未払いだったのですが、恥ずかしくてそれを確かめられなかった。聞いて「がつがつ」しているように思われたいくないんです。でも、勇気を出して聞いたら、手違いだったとすんなり支払ってもらいましたが、言わなければそのままでした。また、一度、

ところへ海を越えて流れていくと身にしました。

この時の経験から、私にとっ
て正社員で働くことは、努力が
報われない滅私奉公という感じ
があります。これから20年働い
てもどれだけ退職金をもらえる
か。まじめにやればやるほど大
変。派遣を選んでいるのは、今
さら「きつい靴に足を合わせら
れない」といった感じもあるか
らです。

非正規雇用で働いているなかでの、 ご経験を聞かせてください。

また私は、ここ1、2年の間に3回、突然「明日から来なくていい」と契約を打ち切られました。

大企業のコールセンターに派遣された時のことです。フロアにいる200人うち、正規社員は1、2人であとは派遣社員。そのほとんどが、氷河期世代と言われた90年代に大学を卒業した男女でした。そうした職場に、バリバリ仕事をしたと思って入っていくと、それまでの派遣の人たちと「ノリが合わない、仲間になれない」というのでしようか、逆に疎んじられます。そこで、本当に知らないうことを大げさに上司に報告され、職場の空気を讀んだ上司が派遣元に突然解雇を言い渡しました。日雇い派遣でもコールセンターの仕事は1ヶ月更新の契約なのに、それがどうして理由もなく、簡単に「解雇」ということになるのでしょうか?

実際、派遣契約が更新される女性は、仕事ぶりより「若くてかわいい」点が評価されているのではないかと思うところがあります。正直いって、仕事の効率から言ったら、「使えない人を優遇している」って感じもありますよ。

時給の値上げを要望したことがありますが、会社が不景気だからと断られ、いまだに昇給はありません。契約社員は2ヶ月分のボーナス40万円をもらえますが、私はボーナスも年次休暇もありません。

「きちんと自分で言わなくては」「権利を行使しなくちゃいけない」と思いますが、それが

できないのは、自分に自信がないせいもあります。自分に確かなキャリアがあるわけでもないし、仕事で能力も高めてもらっているのに、「権利を声高に言えるような身分ではない」と思ってしまう。回りのキャリアがある非正規の人も、そんなに給料をもらっているわけではないし……。

非正規雇用のメリットはありますか？

C 日雇派遣のいいところは、「責任が軽い」「つらい時には休める」ことです。現実的には心に不安がある人間にとっては良い点です。また、一つの仕事で身に付けたことがほかの仕事で役立つことがあります。

A 今の職場では、正社員が怖いとか、プライドが高いとかもなく、非正規と正規の間の人間関係で差を感じることはありません。雇用形態が違うことで、いろいろな友だちができるのもいい点です。

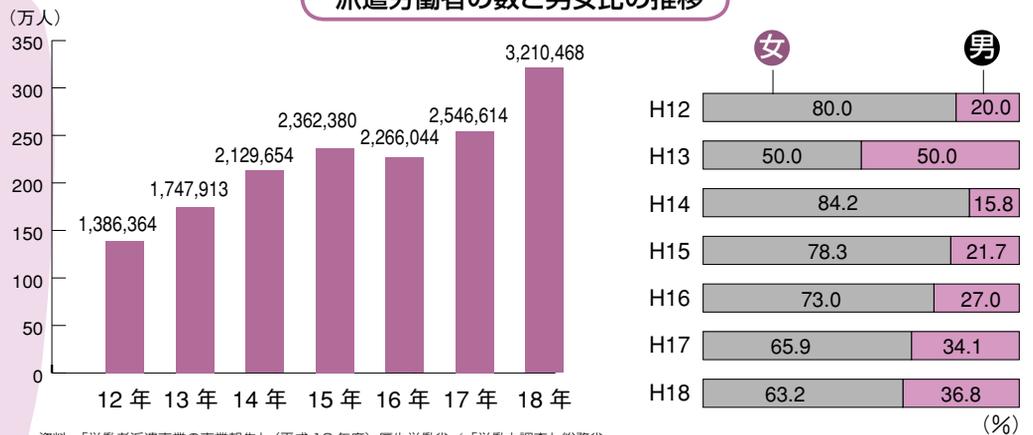
B 私自身は、自分で仕事以外にしたいことがあるので、派遣を積極的に選んでいます。私が関わった会社はどれも派遣社員が多い会社だったので、派遣と正規社員との差はわかりません。また、派遣だからといって、特に悪いことはありません。逆

に正社員だったらできないようなさまざまな仕事に関われます。美術展を実施する派遣先にいた時には、めったに会えないような作家と会えました。

派遣社員は優遇されていると思いますよ。責任をとられることはないし、時間になれば残業をせずに帰れます。正社員にはノルマがあつて、目標達成を厳しく言われます。そんな思いをしても、これからはずっと、その会社で勤められるとは限りません。

D 派遣のいいところは、社員と深く関わらなくていい点です。会社の飲み会にいかなくてもいいし、プライベートなことも聞かれない。重圧がありません。でも、相手の都合で簡単にクビを切られる存在であることは事実です。

派遣労働者の数と男女比の推移



困った時の相談先

- 東京都労働相談情報センター 飯田橋事務所
- 相談電話 5211-2346
- 月・水 9-20時
- 火・木・金・土 9-17時

正規と非正規雇用の差について、思うことは？

A 悲鳴がでるほど忙しいわけでもないし、今の仕事の内容には満足しています。でも、社員であれば、しょっちゅうお茶を飲んで定時に帰り、定年まで働ける。定年後も再雇用で雇ってもらえる。けれど、非正規の人たちは、夜遅くまで働き、きつい仕事をしている。社員でなくても、会社で徹夜している人もいます。本当に会社は正社員には手厚いですが、正規と非正規雇用の待遇に差があります。一度、正規のルートに乗れば安泰だけど、そうでないと、大変です。いま私は、給料と自己実現と仕事の内容が合致していると思っているので、続けていま

ですが、そうでなければ、続きませんね。また、私の職場だけかもしれませんが、メールを使えなくて仕事にならない部署にパソコンが使えない、年齢の高い正規社員や再雇用者が回されています。非正規の人がその人に代わって仕事をします。仕事と人材がミスマッチなので、働く側も大変です。会社側は、その職場、その業務をこれからどうしていくかと考えているのでしょうか。その場、その場のつじつま合わせではなく、長期的な見通しを持って、正規であれ、非正規であれ、人材を使っている

仕事の現場で、非正規だからとのハラスメント(嫌がらせ)がありますか？

C 運搬などの日雇い派遣の現場では、新人の派遣社員を派遣先の人が「へなぐる」といったことはしょっちゅうです。初めて運送の派遣に来た新人に段ボールを持って走らせ、できないとなぐる。足の不自由な人にわざわざきつい仕事をふりわけるといったことがあります。今日一日かぎりだからいいと思うので

しょうか？ 派遣の人たちの組合から、派遣元や派遣先にクレームを入れるようにしていますが、改善されません。

E 男性の正規社員が非正規の若い女性に、言葉の暴力をふるっていたことがあります。けれど、その上司が彼より若い女性で、加害者に注意することができなかった。被害者の女性は

しょうか？ 派遣の人たちの組合から、派遣元や派遣先にクレームを入れるようにしていますが、改善されません。

耐え切れず泣いていました。

非正規雇用でおこる問題の原因は どんなところにあると思いますか？

- A** 今の会社に非正規雇用の流動的労働力が必要なことはわか
ります。でも、正規と非正規の
差が極端すぎる。非正規でも働
いて食べていける「まともな」
待遇になればやる気が起ころ
し、その方が企業にとってもメ
リットがあると思います。
- E** 厨房ではいつも時間との競
争で、新人が入ってきてても十分
に教えることができません。仕
事の研修というものがありません。
「やれ」と言われているのに「や
れ」と言われていない感じがす。
D そうですね。奴隷制を研究
している社会学者が書いている
のですが、今、人間が「使い捨て
て奴隷」になっているのではな
いでしょうか。どんなに優秀な
労働者でも、研修を受けたこと
がないと、技術や知識は積み重
ならず、「使い捨て」されてしま
う。人にもっともつと時間と
お金をかけてほしいです。
- E** 問題の原因は、会社のやり
方にあると思いますよ。本当に
会社の待遇には頭にくることが
多い。会社自体も大変で経営
努力はしています。たとえば、
130人分の食事は症状に合わ
せて塩・糖分等の調整をし、そ
の
ための費用を個人の料金に加
算する。入所者にとってはい
いことですが、やる側からすれば
一人ひとり違う細かい作業で、
手間がかかります。その分時間
がかかって残業になるけれど、
超過分の賃金はでない。会社の
収入が増えても、その分、現場
のパートの私たちにしわ寄せが
きているのです。変な話です。
- D** 派遣の業種が数限りなく広
がっていることも問題だと思
います。派遣業が始まった頃、派
遣が認められた業種は限られて
いました。もともと専門の技能・
技術を持った人を対象に、それ
に見合った賃金で働くことが派
遣だったと思いますが、今は、
それがなし崩しで「いつでも使
い捨てできる労働力」となって
います。
- C** 職場でも仕事や待遇の話は
できません。非正規雇用の人た
ちが個人で加入できる組合もで
きてきましたが、存在ははまだま
だ知られていないし、なかなか
相談もできない。
- D** 外部に相談機関があると
いっても、相談相手の顔も見え
ないので、本当のことがなか
なかな言えないし、実際に解決に結

座談会

ハケン、パートで生きる私たち 洗いざらい話します 非正規雇用で生きる現実とこれから



パートタイム労働者 短時間労働者。パートタイム労働法では、1週間の所定労働時間が同じ事業所に雇用されている通常の労働者に比べて短い労働者のことを指しています。短時間労働者は、パートタイマー、アルバイト、嘱託、契約社員、臨時社員など様々に呼ばれています。

派遣労働者 派遣元の事業主との間に雇用契約があり、派遣先との間に、指令命令関係がある労働者。



びつつかの期待薄ですね。昔は同僚と話せたことが、個々人が分断されていて内部でまとまらないことも大きいと思います。

一方、非正規の人たちは、自分たちの権利を十分に知っているかといったら、自分の契約がどのようになっていいるかもわからなかったりします。学ぶ機会がないんです。

C そうですね。就業規約で

少しでも非正規雇用の 状況が良くなるために、 どうしていったらいいとお考えですか？

D 私は同じ非正規の人たちと有給休暇をとれるようにかけてあって、ようやくとれるようになった経験があります。黙ってはいはだめだと思っています。

B これまで4つの会社を派遣で回りました。やってみたい仕事や賃金などの派遣の情報をインターネットや情報誌などで探します。派遣についての勉強会もあり、そこに出ることで、同じ仕事の内容なのに賃金に差があるなどの情報交換ができます。働く側でもそうした情報や場をもっと利用していく手はあると思います。

私の場合は、派遣元の会社にしっかりとした社会保障があり、きちんと対応してくれています。登録すれば、自分の希

は、有給休暇や時間外手当がつくことになっていても、それを知らない。だから、活用されない。会社側は、働いている人の権利をわざわざ教えてはくれません。男女のマニユアルが違っていたので「男女平等で」と会社に入ったら、低い女性の賃金に合わせて男性の賃金を引き下げ、同一賃金だと言われたという笑えない話も聞きました。

望や意思も聞いてもらえるので、安心できます。確かに、今はいいですが、雇用状況がどんどん変わっていくなか、先がどうなっていくだろうかと思ひます。少なくとも10年はもつてほしいですが……。

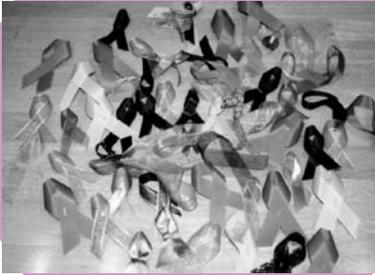
E 50歳過ぎると、正規の仕事はもちろん、非正規の仕事もほとんどなくなります。ですから、自分の力やスキルを継続して積み上げていくことが大事だと思いますね。これから私は、持っていたスキルを活かして、夫と2人で、パート関係の仕事で起業するつもりです。

D 私は、今は職人のように手に職をもって、一生続けられる仕事をしたと思っています。

2007年度

MIW パープルリボン・プロジェクト

MIW（ミュウ）では、DV（ドメスティック・バイオレンス：夫や恋人など親密な間柄での暴力）をなくす運動の一環として、2005年度より「パープルリボン・プロジェクト」に取り組んでいます。これは、DVなどの女性に対する暴力や虐待などの個人間の暴力をなくす運動として、一人ひとりが参加し、行動できるキャンペーンです。みなさんから集まったリボンで2005～06年度はキルトを作りましたが、今年度はタペストリーを作り、展示します。



皆さんがホチキスどめしてくれたリボン



福祉まつりで共催したザ・ボディショップのメッセージリップとパープルリボン



いずみこどもプラザの皆さんが作ってくれたパープルリボン



子どもからお年寄りまで参加した福祉まつりでもたくさんのパープルリボンが集まりました



リボンカフェでタペストリーをつくる女子高校生たち



パープルリボンについてのパネル展示



2006年度はキルトが2枚できました



皆さんから頂いた「暴力のない世界」へのメッセージと写真を組み合わせて

お気に入りの場所で、昔…

千代田区内には、皆さんのお気に入りの場所が1つや2つあるのではないのでしょうか？
かつて「私のお気に入りの場所」には、どのような暮らしや風景があり、女性たちはどのように生きていたのでしょうか？
第6回は、神田錦町界隈を訪ねます。

その6 松本亭を支えた女性たち

現在、学士会館がある神田錦町界隈は、明治の初期から昭和にかけて、たくさんの旅人宿があった地域でした。地方から東京に出てくる人たちに宿を



大正9年秋 明治大学学生運動の指導者たちとフミ、松本亭前で。

提供し、切り盛りをしたのは宿のおかみさんたちでした。昔は、8割の宿で経営の中心をおかみが担っていたといえます。

旅人宿は、単なる宿泊所だけにとどまらず、新しく明治という時代を興す人々の集まる場所ともなりました。その中心となったのが、松本亭です。

全国各地で民権運動（国会開設上願等）が盛り上がった明治初期、土佐の立志社・板垣退助が、「自由民権」を旗印に愛国社を設立しました。その時、松本秀発（松本志げの夫）は板垣らに共鳴し、愛国社設立に参加しました。愛国社に参加した各県各社は、毎月2、3回は東京に社員を出張させるので、

彼らの宿泊所や集会の場が必要となりました。

そこで、松本志げは、夫秀発にかわって、明治8年に錦町一丁目四番地（現東京電機大学6号館の場所）にあった手頃な旅館を買い、彼ら志士たちの宿泊及び集会所にあてました。それが松本亭の始まりです。その後、松本亭は、明治30年頃の田中正造の足尾銅山鉱毒事件などの集会の場としても使われていきました。

志げの長女フミに引き継がれた松本亭は、明治・大正・昭和の3代にわたり、自由と人権尊重を求める人たちの宿・集会の場として、時代の荒波に呑み込まれていったのです。



大正11年6月 松本フミ（41歳）



明治40年の神田錦町付近の地図



大正4年春 第12回衆議院選挙開票当日の風景。車の向こうにフミが見える。

（出典・参考文献『神田錦町 松本亭』川台貞吉著 1977年 学芸書林）

INFORMATION

◆ 情報交流会・MIW 千夜一夜 第58夜

ケンカするより 仲良く2人

ゲスト 西田小夜子さん(作家・定年塾代表)

日時 3月6日(木) 18:30~20:00

会場 MIW 交流サロン(千代田区役所 10F)

◆ 女性の健康支援講座

つらさを知ってほしい人と一緒に学ぶ 更年期の過ごし方・ケアの方法

日時 3月13日(木) 18:30~20:30

会場 千代田区役所 4F 401 会議室

講師 小田瑞恵さん(女性のための生涯医療センター ViVi 所長)

◆ ジェンダーを考える講座

ジコチューな「愛」にさよならして 恋愛の達人になる!

日時 3月15日(土) 14:00~17:00

■ワークショップ「恋愛コミュニケーションのスキル」

講師 END VIOLENCE

(瀧田信之十渡邊千尋十ユースリーダーの皆さん)

■実習「自分を大切にできるスキンケア」

講師 青木昭子さん(資生堂ビューティー・コンサルタント)

会場 千代田区役所 4F 研修室

対象 区内在住・在学の10~20代の女子・男子生徒/学生

◆ 性と人権に関する講演会

日時 3月29日(土) 14:00~16:00

会場 MIW 交流サロン(千代田区役所 10F)

講師 上川あやさん(世田谷区議・性的マイノリティを公言して日本で初当選した議員)、虎井まさ衛さん(作家・FTM 日本主宰)、高松亜子さん(形成外科医師)、あい宏枝さん(学習コーディネーター)

申込 電話またはファクシミリでMIWへ。
TEL 5211-8845、FAX 5211-8846

MIW 相談室

MIWの相談室では、夫婦関係、男女の生き方・働き方、セクシュアル・ハラスメントや夫婦や親密な関係での暴力などについて相談を受けています。相談は面接でも電話でも可。予約制になっています。(区内在住、在勤、在学の方対象)

◆電話での予約 **TEL 03-5211-4316** 相談は無料です。
秘密は堅く守ります。

◆相談日時(女性カウンセラーが担当します。)

第1・3・5水曜日 10:30~15:30 第2・4水曜日 17:00~21:00
第1・3・5木曜日 17:00~21:00 第2・4木曜日 10:30~15:30

MIW イベント紹介

講座 おとなの生活科

「食からはじまる、わたらしい人生」

【第1回】10月5日(金)

東洋の知恵に学ぶ、いのちと食のつながり

講師:小俣多江子さん(NPO 法人おむすびママの会理事長)

【第2回】10月19日(金)

こころとからだのいい関係をつくる“食”選び

講師:竹森美佐子さん(食生活アドバイザー/NPO 法人みんなの食育代表理事)

毎日の食生活から生涯にわたる食との関係まで、「食を大切にすることは生き方を大切にすること」とのメッセージが伝わってきました。



講師の小俣多江子さん



講師の竹森美佐子さん

情報交流会・MIW 千夜一夜

【56夜】11月20日(火)

白洲正子さんの素顔を語る

ゲスト:松井信義さん(暮らしのうつわ 花田 店主)
「男性、女性にこだわらず自由な精神を持ち続けた白洲さん」の素顔にふれました。

【57夜】12月5日(水)

2万人の笑顔に出会える MERRY な夜

ゲスト:水谷孝次さん(アートディレクター、メリープロジェクト代表)

MERRY(楽しい/幸せなこと)とは何かのメッセージと笑顔の写真を集めるメリープロジェクトを水谷さんが熱く語ってくれました。

千代田区男女共同参画センター MIW(ミュウ)

◆所在地:〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1
千代田区役所10階

◆交通機関:東京メトロ東西線、半蔵門線、都営地下鉄新宿線
「九段下」駅下車、徒歩5分

◆開館時間:月曜日~金曜日 午前9時~午後9時
土曜日 午前9時~午後5時

◆休館日:日曜日、祝日、年末年始

◆TEL:03-5211-8845/相談予約受付 03-5211-4316

◆FAX:03-5211-8846

◆E-mail:miw@city.chiyoda.tokyo.jp

◆URL:http://www.city.chiyoda.lg.jp
(MIWで検索してください)



●編集後記

正規、非正規の雇用形態を問わず、今は多くの問題を抱え大変な時代ですね。MIWでは、一人ひとりが輝ける「自分らしい生き方、働き方」のために男女共同参画・ワークライフバランス社会の実現に向けて、これからも様々な切り口で講座等を開催していきます。スタッフ一同皆様のご参加をお待ちしています。(M)

編集:千代田区男女共同参画センター(株)生活構造研究所
発行:千代田区 デザイン:スタジオサラ
印刷:港洋社 表紙イラスト:かとうゆみこ
発行日:2008年1月31日